

様式（第3条関係）

## 東京都とうきょうすくわくプログラム推進事業活動報告書

所在地	東京都品川区大崎 4-1-2 ウィン第2 五反田ビル 2F
園名	ベネッセ大崎広小路保育園

### 1. 活動のテーマ

<テーマ>

自然

<テーマの設定理由>

当園は園庭がなく、また都心部であるが故に土に触れる経験が少ない。目で見ると耳で聞く・手で触る・鼻で嗅ぐ・舌で味わうというこの五感を育てる経験、体験が幼児期には必要と考え、園内での栽培には限りがあるため毎年4歳児・5歳児の異年齢でバスに乗って芋ほり遠足に行っている。芋ほり遠足を通して「家族のお芋」「ちよんまげのお芋」など想像力豊かに芋ほりを楽しむ姿や、ツタの長さやしなやかさに気づき、友だちと比べ合う姿があった。戸外への散歩でも落ち葉や木の実に興味を示し、拾い集めたり落ち葉の上に寝転がってダイナミックに遊んでいた。子どもたちの自然物に触れ生き生きとしている姿から、更に自然への興味関心を深めるため。

### 2. 活動スケジュール

- ① 4・5歳児の異年齢でバスに乗り、芋ほりに行く。
- ② 芋とツルを持ち帰り、リース作りをする。
- ③ 自分たちで掘った芋で調理スタッフと一緒にクッキングをし、スイートポテトを作った。

### 3. 活動のために準備した素材、道具及び環境の設定

芋ほり遠足のためのバスの手配・準備、子ども達が木の実に興味関心を深めるために図鑑を用意

#### 4. 探究活動の実践

##### <活動の内容>

- ・4・5歳児の異年齢でバスに乗り、芋ほりに行く。芋とツルを持ち帰り、リース作りをする。
- ・編んだリースを保育室内の窓際に干すことで、子どもの興味関心を引き出した。
- ・3～5歳の異年齢でどんぐりが落ちている場所に散歩で行き、どんぐりが拾えるようにした。
- ・5歳児は公共のバスに乗り、近隣の大きな公園に行った。各自散歩用のバッグを持って行くようにした。帰園後は拾った自然物を互いに見せ合う機会を設けた。
- ・保育室内に木の実に関する掲示をしたり、図鑑を用意した。
- ・どんぐりを干すときには保育室内の窓際に置き、期待感が高まるようにした。
- ・自分たちが拾ってきた自然物を使い、リース作りを行った。
- ・リースを園の玄関に飾ることで、園全体の保護者に制作物を見てもらえるようにした。

##### <活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

「お芋堀りはどうだった？」と保育者が尋ねたところ、子どもたちから様々な感想が上がった。保育者がつるを見せ「これで何ができる？」と問いかけてみると、それぞれの意見が上がった。リースができることを伝えると子どもたちは目を輝かせていた。その後リースを干していると、「どんぐりを付けたい」「まつぼっくりもいいんじゃない？」など子どもたちから自然物を付けたいという意見が出た。



## 5. 振り返り

### <振り返りによって得た職員の気づき>

すくわくプログラムを通じて、担任が意識して遊びを繋げていこうと思えた。子どもたちの育ちにもなり、保育者としての学びにもなった。保育者の視点が変わったことで保育をしていく中で、「これが、次につながるかも」と気づくことが増え、遊びを継続するためのきっかけを仕掛けることができた。掲示物を作成し振り返ったことで改めて、全てが繋がっていることを感じた。